

和歌山工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語総合
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	電気情報工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	4		
教科書/教材	教科書: BIG DIPPER English Communication II (数研出版)、教科書準拠のワークブック 参考書: 『総合英語 Be (3rd Edition) 』 (いっずな書店)					
担当教員	原 めぐみ					
到達目標						
1. 教科書の内容や教師の話す英語を聞いて、大体的内容を理解できる。 2. 教科書と同程度の文献を読んで、辞書を使えば、その概略を理解できる。 3. 事前に準備をすれば、少人数のグループの中で、英語を使って自分の関心事について説明したり、自分の意見を述べることができる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		理想的な到達レベルの目安(良)		理想的な到達レベルの目安(可)	
Reading: 簡単な語を用いて書かれた人物、場所、生活、文化などの紹介文、および組織や計画の経緯をまとめた短い文章が理解できる。(TOEIC: Reading Section:140)	到達目標を最低80%達成している。 。		到達目標を最低70%達成している。 。		到達目標を最低60%達成している。 。	
Listening: 乗り物や駅、空港などでの短いアナウンス、学校の科学や専門分野の宿題などについて、ゆっくり明確に、なじみのある発音で指示されれば、要点を理解することができる。(TOEIC: Listening Section:160)	到達目標を最低80%達成している。 。		到達目標を最低70%達成している。 。		到達目標を最低60%達成している。 。	
Writing: 日常的・個人的内容のメモ、日記や、実験、製品などの説明について、and, but, becauseなどの平易な語で繋ぎながら、簡単だがまとまりのある英語の文章を書くことができる。	到達目標を最低80%達成している。 。		到達目標を最低70%達成している。 。		到達目標を最低60%達成している。 。	
Speaking: エンジニアとしての自己紹介や、学校、さらには技術工学の基本的な事柄について、視覚補助を用い一連の簡単な語句や文を使って、短い話を行うことができる。数値指標: GTEC: Grade 3 [upper]、実用英検 準2級	到達目標を最低80%達成している。 。		到達目標を最低70%達成している。 。		到達目標を最低60%達成している。 。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	1. 1年次で学習した内容を発展させ、基本的な語法にさらに習熟する。また「聞く」「話す」「読む」「書く」の各技能を高め、技術者に必要な実践的英語力を養う。 2. 種々の読み物を通して、英語圏に限らず世界各地の状況に触れ、グローバルな視野を広める。 3. 視聴覚教材やアクティブ・ラーニングの機会を活用して、オーラル・コミュニケーション能力の向上を図る					
授業の進め方・方法	事前学習として、辞書で単語の意味などを調べたり、テキストの英文を和訳してみるなどして内容を確認しておくこと。その際分からなかった個所や疑問に思った個所をチェックしておくこと。 授業内学習では学生を指名して、調べたことを披露してもらい、新出単語や慣用句、文法、模範的な和訳などの解説を行うので、自分の行った予習との確認作業を行う。疑問点はその時間内に解消するように心がける。またリスニングやスピーキングのためにグループワークなどの演習には積極的に参加すること。 事後学習では、短時間でもいいのでその日授業で学習したテキスト、ノートを再確認する。授業中に取ったメモなどをもとに自分が分かりやすいノートをまとめるといいだろう。復習の時の方が参考書の記述への理解が深まるものだ。					
注意点	単語などの小テストが予めアナウンスされている場合はそれに備えておくこと。授業を休んだ場合は、休んだときの授業の内容や、課題の有無などについて、クラスメートや担当教員に確認しておくこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、Lesson 1 (Part1)		現在完了、過去完了(復習)	
		2週	Lesson 1 (Part2)		受動態(復習) / SVC(C=現在分詞,過去分詞)	
		3週	Lesson 1 (Part3) Lesson 2 (Part1)		SVO(O=wh-節)(復習) / SVO1O2(O2=that-節)	
		4週	Lesson 2 (Part2, Part3)		関係代名詞(復習)	
		5週	Lesson 2 (Part4) Lesson 3 (Part1)		不定詞(復習) / 関係代名詞の継続用法(1)	
		6週	Lesson 3 (Part2, Part3)		関係代名詞what(復習) /	
		7週	Lesson 3 (Part4)		関係副詞(復習)	
		8週	Lesson 4 (Part1)		記事の読み方	
	2ndQ	9週	Lesson 4 (Part2)		仮定法過去(復習)	
		10週	中間試験答案返却と解説 Lesson 4 (Part3)		関係副詞whereの継続用法	
		11週	Lesson 4 (Part4)		未来進行形	
		12週	Lesson 5 (Part1)		動名詞の意味上の主語	
		13週	Lesson 5 (Part2)		関係代名詞の継続用法(2) /	
		14週	Lesson 5 (Part3)		助動詞+have+過去分詞	
		15週	Lesson 5 (Part4)		完了不定詞	
		16週				

後期	3rdQ	1週	期末試験答案返却と解説Lesson 6 (Part1, Part2)	SVOC(C二過去分詞)/仮定法過去完了
		2週	Lesson 6 (Part3)	分詞構文(基本)(復習)
		3週	Lesson 6 (Part4)	受動態の分詞構文
		4週	Lesson 7 (Part1)	仮定法〈as if+S'+仮定法〉
		5週	Lesson 7 (Part2)	仮定法〈If+S'-were to〜〉
		6週	Lesson 7 (Part3)	未知語の推測
		7週	Lesson 7 (Part4)	If-節に代わる表現
		8週	Lesson 8 (Part1)	進行形の受動態 / 省略
	4thQ	9週	Lesson 8 (Part2)	形式目的語 it (to-不定詞 / that-節)
		10週	中間試験答案返却と解説Lesson 8 (Part3)	現在完了進行形
		11週	Lesson 8 (Part4)	過去完了進行形
		12週	Lesson 9 (Part1)	同格を表す of / that
		13週	Lesson 9 (Part2)	複合関係代名詞
		14週	Lesson 9 (Part3)	倒置
		15週	Lesson 9 (Part4)	関係副詞 when の継続用法
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭に聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
				分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能
他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3					
他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3					
日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3					
円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3					
円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3					
他者の意見を聞き合意形成することができる。	3					
合意形成のために会話を成立させることができる。	3					
グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3					

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他(小テスト)	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	40	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0